



日本聖公会婦人会 2023年2月28日発行 ニュースレター No. 75

〒297-0032 千葉県茂原市東茂原 10-192 永井眞由美方

電話/FAX 0475-24-6915



「よきおとずれ」

日本聖公会婦人会 担当主教
横浜教区 主教 イグナシオ 入江 修



電車で移動する際、駅や電車の案内パネルには、人身事故のために運転見合わせや遅延の掲示をしばしば目にします。人身事故の多くは、列車への飛び込みによる自死です。その背景にあるのは世の中の価値観であり、利用価値、商品価値で人が査定される社会です。つまり、「何ができるか」、「役に立つかどうか」が求められ、そのことが価値基準とされている社会です。

日本で自死する人の数は、少なくとも1978年以来、毎年2万人以上です。「消えたい」というチャットの書き込みは絶えず、その遺書には、「生きていても迷惑になる」とか、「邪魔にされるのが辛い」とも書かれているそうです。そうした人たちは、「自分が生きていてもいなくても同じだ」と考えたり、「いない方が世の中のためになる」と考えたりしています。

イエスさまが尋ね出しされたのは、まさにそのような人たちではなかったのでしょうか。存在することに何ら意義も価値も認められないでいた人たちです。イエスさまはそのような人たちに、神さまはあなたを望んで造られ、あなたの存在そのものを尊いものとされ、あなたはただ生きているだけでいいのだということを、そのみ言葉とみ業をもって宣べ伝えられました。

それはすなわち、あなたは神さまから無条件に愛されている大切な人なのだと告げられることです。

聖マタイの福音書第11章で、ヘロデに捕らえられた洗礼者ヨハネは自分の弟子をイエスさまの許に遣わして尋ねます。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」と。

すると主はこうお答えになります。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いです。」と。

これが、イエスさまが宣べ伝えられた“よきおとずれ”、み国の福音です。それは、神さまはあなたを望んで造られ、あなたの存在そのものを尊いものとして、あなたはただ生きているだけで尊いのだという宣言です。

そうであるならば、今もなお、これはすべての人に告げ知らされるべき“よきおとずれ”であり、私たちはそのことのゆえに主の御許から遣わされているのです。



ごあいさつ



日本聖公会婦人会 会長 リベカ 永井 眞由美

昨年6月、日本聖公会婦人会第27（定期）総会において横浜教区が会長選出教区となり、私どもが日本聖公会婦人会の役員を担うことになりました。9月に武藤首座主教様より任命を受け、10月に前役員会より引継ぎ、本格的に始動しました。前役員会が作成下さった資料に首引きでやっと2023年度の被献日献金関係書類の発送を終えた次第です。

この3年はCOVID-19感染拡大により、世界中が大混乱をきたしました。教会も経験をしたことのない礼拝休止という事態になり、私たちは大きなショックを受け、大変不安になりました。現在では制限はあるものの教会に集い皆で聖餐に与れる喜びを感じております。

一方で、私たちはオンラインで直接顔を合わせずに、自宅に居ながら会議をしたり、遠く離れた講習会に参加できたりと、大変便利な方法を使えるようになりました。例えば、昨年11月25日行われましたACWCJの一日研修。これは当日のみだけではなくユーチューブで年末まで見ることができました。また、感謝箱献金のお献げ先の1つケニアのサイディア・フラハの荒川さんが毎月オンラインを通して子ども達の学びや遊びの様子をご報告下さいます。この報告会を要約したものは日本聖公会婦人会のホームページからご覧になれます。そして、私がオンラインを利用出来て一番嬉しかったのは、昨年4月に行われた北海道教区の主教按手式でした。ご覧になられた方も多くおられたことでしょう。東アジアで初めての女性主教誕生の場に千葉県茂原の自宅からオンラインで立ち会う事ができたことでした。

しかし、その一方でオンラインを利用できない方々が多くおられることも事実です。本来、教会は神さまと人と人との繋がり、交わりを大切に参りました。これはオンラインではなかなか難しいことです。現在ではまだ無理ですが、特に女性は愛餐会、お仕事会などでの楽しいおしゃべりの中から良いアイデアが浮かび、よい働きへと発展して参ります。このような場を大切にしつつ、オンラインの利点も活用し人とのつながり、交わりを一層強めて参りたいと思います。どうぞ、今後とも日本聖公会婦人会の働きをお憶え頂き、お祈り、お支え下さいますよう、宜しくお願い致します。





2022年度被献日献金活用実施報告



日本聖公会婦人会では、毎年2月2日の被献日に献げられた信施金を、教会に連なる人たちの学びに活用していただいています。対象となるのは、教区婦人会、有志グループ、神学生、聖職候補生、関連団体、感謝箱献金事務局（コア）です。2022年度にこの献金を活用した方々の報告をお届けいたしますので、2023年度の申請をご検討される方はご参考にしてください。

申請方法、期間については、各教会婦人会にお送りした案内をご覧ください。日本聖公会婦人会のホームページにも掲載しています。

《 神学生枠 》



ウィリアムス神学館 3年生

ステパノ 高野 洋（横浜教区）

三年間にわたりご支援頂いたことに改めて感謝申し上げます。

自分の無力さを味わう時、諦めてしまおうという気持ちが沸き上がり、寸前のところで踏みとどまるという場面がこれまでに何度かありました。しかし、神学校の三年目まで何とか来られました理由に「気にかけて下さっている方々、応援してくださっている方々を裏切れない」という思いがあります。「お支え頂いている」というのは、まさにこのような事を指すのだと実感します。被献日献金は、頂いたからには安々と諦める訳には行かないと自分を律する力になりました。被献日献金は、気にかけて頂いている方々がおられるという事を感じながら、いずれ形を変えてお返ししなければという責任を感じながら使わせて頂くことになります。期待を受け止める覚悟をもって学ぶことが自分に課せられているのだと感じます。私のように気持ちが定まらない者には、このような重しが力になっているのだと思います。

さて、本年購入させて頂きましたのは、神学校の中で先生方にご紹介頂いた書籍、繰り返し参照すべく手元に置いておきたいと考え選ばせて頂いた書籍です（NTJ 新約聖書注解（ルカ、ガラテヤ）、イス

ラエルの知恵、出エジプト記下、VTJ旧約聖書注解(出エジプト記:1~18章、19~40章)(以上教文館)、4福音書対観表(教団出版局)}。最後に日本聖公会婦人会の働き、また婦人会の皆さまに主の祝福がありますようにお祈り申し上げます。



ウィリアムス神学館 3年生

サムエル 藤井 和人(京都教区)

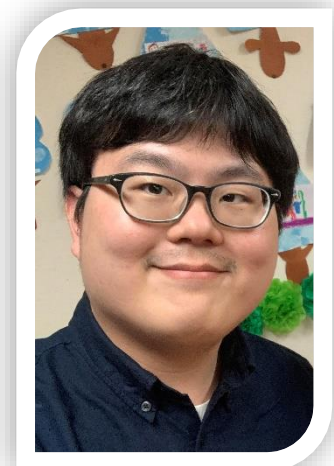
主の平和がありますように。この度は、被献日献金活用の申請を承認していただきありがとうございます。今回は、①ドナルド・K・マッキム『キリスト教神学用語辞典』、②田川健三『新約聖書 訳と注1 マルコ福音書 マタイ福音書』、③『新約聖書 訳と注2上 ルカ福音書』、④『新約聖書 訳と注5 ヨハネ福音書』、⑤小友聡『コヘレト書』(VTJ旧約聖書注解)、⑥嶺重淑『ルカ福音書1章~9章50節』(NTJ新約聖書注解)、⑦J・D・G・ダン『使徒パウロの神学』の7冊を購入させていただきました。私自身、神学校の卒業を間近に控えながらも、目の前の課題をこなしていくことで精一杯で、なかなか卒業後の実感が湧かない今日この頃を過ごしております。けれども、卒業と同時にどこかの教会に遣わされてからが、本当の意味においての神学の学びの始まりになるのだらうと思います。今回購入させていただいた7冊は、そのような卒業後の新たに始まる神学の学びとそして教会での実践のために選ばせていただきました。これから大切に活用させていただきます。いつもお祈りの内にお支えをいただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、日本聖公会婦人会に連なるすべての方々に神様の豊かな祝福とお恵みがありますようにお祈りいたしております。

ウィリアムス神学館 3年生

ダビデ ヤン グォンモ 梁 權模(京都教区)

この度、私は被献日献金を活用して『新共同訳 旧約聖書略解』、『新共同訳 新約聖書略解』、そして『新版 総説 旧約聖書』、『Biblia Hebraica』を購入いたしました。

これらの書籍は、前の二冊は簡略な注解書で、三番目の書籍は旧約聖書に関する解説書、そして最後の書籍は旧約聖書のヘブライ語原文



の聖書です。まず、一番目及び二番目の書籍は、新共同訳聖書の簡略な注解書です。略解というタイトル通り、聖書各書に関する簡潔な注釈及び解釈、そして解説が記載されています。これらの書籍は、私が奨励・勧話の作成をする際に非常に役に立ちましたし、また旧約釈義の授業においても大いに助けられました。

三番目の書籍は、『総説 旧約聖書』というタイトルですが、旧約聖書に関する聖書学的な諸説を網羅した、解説書です。旧約聖書を勉強するに際して、旧約聖書の成立の背景やその経緯、資料の問題などに関する様々な学説を集めており、それをまた詳細に解説している書籍です。この書籍は同じく、旧約聖書の勉強において、その背景や今に至るまでの学説の流れを理解することに、非常に役に立ちました。

最後の書籍は、旧約聖書のヘブライ語原典です。前年度にヘブライ語の授業を受講したことと、また今年度においては旧約聖書の釈義に関する授業を受講することになりましたので、原典を読んでその言葉の意味を釈義する必要があると思われたので、この書籍を購入しました。旧約釈義の授業でヘブライ語原典を読む機会が結構ありましたので、この書籍を活用する機会も多くありました。また、今後の牧会においても、この書籍が役に立つと思っております。

最後に、前年度と同様、私のみならず諸神学生の勉学のために大きな金額を支援してくださった、日本聖公会婦人会の皆様に深く感謝を申し上げます。



ウィリアムス神学館 2年生

クララ 小野 恭子 (京都教区)

いつも私たち神学生の事をお支え・お祈りくださり、本当に有難うございます。またこの度は、貴重な「被献日献金」を書籍代として使わせて頂けたことを、心より感謝申し上げます。

頂きました書籍代で、「新共同訳旧約聖書注解Ⅰ」「新共同訳旧約聖書注解Ⅱ」「新約ギリシヤ語辞典」「新約ギリシヤ語逆引辞典」の4冊を購入しました。

昨年ウィリアムス神学館に入学が許され、気が付けばもう1年以上経ち、現在は2年生となりました。それに伴い授業内容がぐっと濃くなり、毎日授業の度に「えっ…分からない」「どう答えれば(考えれば)良いのか…？」等々、頭を痛めております。しかしその反面と言ってはなんですが、神学を学ぶ面白さ・楽しさというのでしょうか。そういったこともじんわり味わっております。昨年、そして今年購入させて頂いた本を読み知った事柄と、授業等で教わった事との繋がりを感じた時、というのでしょうか。そういった時、心のどこかに灯がついたような、嬉しい感覚になります。

この文章を読んでいる皆さまをはじめ、色々な所で出会う方々に「頑張ってね!」「お祈りしているから」等励ましの言葉を頂き、1年生の時と変わらず、いや、1年生の時以上に私の心は「有難うございます」という感謝と嬉しさ、そして今の自分の状態を振り返って「こんな状態で大丈夫、だろうか…」という申し訳なさでいっぱいです。この度購入した書籍を糧に、一層勉学等に励みたく思っております。皆さま、これからも何卒宜しくお願い致します。

ウィリアムス神学館 1年生

ステラ・ミシェル 大倉 有紀 (大阪教区)

大阪教区神学生の大倉有紀と申します。この度は、皆様の尊いご献金で神学書を購入させていただきましたことを心より感謝致します。神学書はなかなか個人では求めづらく、原稿を書く際は図書館を利用する事が多かったのですが、手元にあると大変便利で安心感がありました。神学書は教会の教話を担当する時や、神学館の講義のレポートを書く際に利用させていただいています。私は大学時代カルヴァンの研究をしており、当時は金銭的に買うのが難しかった神学書をこれからは自分でコツコツ揃えていこうと思っています。今回購入させていただいたカルヴァンの書籍一冊をきっかけにして、今後もう一度研究を再開できたらと思っています。まだまだ道半ばですので、皆様に応援していただけると嬉しいです。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。



ウィリアムス神学館 1年生

ヴェロニカ 薦田 久美子 (大阪教区)



日本聖公会婦人会の皆さま

主の平和がありますように

入学して早や8か月が過ぎ、現在は2学期の期末テストに向けての準備期間ですが、テスト準備だけではなく、実習教会の日曜学校でするお話や奨励の原稿作成などもあり、忙しく過ごしております。

さて、4月にはたくさん的高価な本を購入していただき、ありがとうございました。

1年生ですのでフル活用とは全く言えませんが、早い時期から注解書をよく使わせていただいております。

旧約聖書は特に時代背景を知らなければ理解できないことが多く、歴史が苦手な私にとって注解書を読んでからテストに臨むことは必須です。(注解書の内容がまた難しくてお手上げ、ということもよくありますが。)

また、日曜学校でお話をする時にも注解書を読み、自分がその福音書箇所に関して思い違いをしていないかを確認してからお話を作るようにしています。

同じく総説新約聖書も、通読とはいきませんが必要な箇所を確認するため使わせていただいています。

そして、A History of the Church in Englandは授業の中で読み、英国教会の歴史をよく知ることができました。古い英語で書かれていますので、スペルや単語の並びなどが現在の英語とかなり違いますが、それだからこそ当時の雰囲気を感じながら読むことができました。また、この本で学んだ内容は教会史でも出てきますので、とても役に立ちました。

皆さまのお祈りとお支えに感謝しながら、今後もしっかりと学んでまいります。

聖公会神学院 3年生

聖職候補生 セバスチャン 染谷 孝章(横浜教区)

主のみ名を賛美いたします。

神学院諸聖徒礼拝堂入口の紅葉が今年は例年より鮮やかに感じられます。

改めまして皆様のお祈りとお支えを切に感謝申し上げます。

そして歴史ある被献日献金の尊いお支えを本当にありがとうございます。申請を認可頂き手元に届きました書籍は「キリスト教教父事典」「古典ユダヤ教事典」「オックスフォードキリスト教辞典」「聖書学用語辞典」となります。これらの事典、辞典類は神学院の先生方にも相談の上、卒業後も有効活用できるものを選ばせていただきました。

この一年を振り返りますと、最初に思い起こされるのは、コロナ禍のため1、2年次には中止となっていた施設実習に初めて参加できたことです。「ホッとスペース中原」に三週間お世話になりました。ここでの職員や利用者さんとの交わりや、施設の取り組みは、今後私が歩む道標の一つとなりました。

授業では、3年次に説教があり、とても苦労はしていますが、学びがいろいろあります。実存をかけて聖書と向き合うことをからだ全体で強いられるためでしょう。

いよいよ、神学生生活も残すところ3ヶ月となりました。卒業論文、卒業試験と取り組む課題が待ち受けていますが、皆様からのお祈りとお支えに支えられながら、日々を大切に過ごして参ります。皆様とご家族の上に主の恵みが益々豊かにありますように、用賀よりお祈り致します。主に感謝。



日本聖公会婦人会のお支えに感謝して

聖公会神学院 3 年生

聖職候補生 パウロ 福永 澄 (東京教区)



主の御名を賛美します。

日頃よりお祈りのうちに覚えてくださいますこと、そしてご支援をいただきまして、ありがとうございます。

この度は、貴重なお献げ物である被献日献金によって、2 冊の書籍を購入させていただきましたこと、感謝をもってご報告いたします。

『A Greek-English Lexicon Claredon Press Oxford』 Henry George Liddell & Robert Scott 著

『オックスフォード キリスト教辞典』E. A. リビングストン編

『A Greek-English Lexicon Claredon Press Oxford』は 3 年次のギリシャ語 C の学びや、新約聖書釈義において、ギリシャ語の原典からの聖書を私訳する際に、語彙・語釈を調べる上でとても役立つものでした。この『A Greek-English Lexicon Claredon Press Oxford』は、今後も教会での説教の準備や信徒の皆さんとの聖書研究会などの準備においても活用させていただきます。

『オックスフォード キリスト教辞典』は、キリスト教全般にかかわる総合辞典であり、欧米のみならず、アジアやアフリカなども含めグローバルな視点も含めて解説されており、かつエキュメニカルな視点をもって編集されています。そのため、聖書についてはもちろん、歴史や神学、礼拝や美術、建築、文学、音楽など、キリスト教にかかわる項目について、用語の意味などを端的に説明するための辞典として活用させていただいています。

皆様のお支えに感謝しつつ、これらの書籍での学びを土台として、これからも学び続けてまいりたいと思います。最後になりましたが、日本聖公会婦人会のお働きと、お一人ひとりの上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。



《 教区婦人会枠 》

京都教区婦人会

京都教区婦人会事務局 代表 小林 格子



主の平和が世界中に行きわたりますように

昨年(2022)の7月13日、聖アグネス教会礼拝堂とガーデンパレスに於いて京都教区第120回婦人会大会を行いました。コロナ第7波の兆しが見える時期でしたが4年ぶりに開催できた大会でした。2021年、2022年の2年間にわたり、貴重な被献日献金からこの大会をお支えいただき本当にありがとうございました。

従来の1泊2日での大会を日帰りにするのが昨年決まりましたが、日帰りでも参加者の交通費は同様に必要でした。遠隔地からの参加者の交通費補助として献金を使わせていただきましたので、お蔭様で京都教区の6伝道区全てから約70名の参加が叶いました。

1日だけという日程の中で、代表者会は事前に書面議決で行い、困難な状況の中、集まることができた皆で、祈りと分かち合いの時を持てたことに感謝しました。大会開催の一助となるバザー、ルデヤ会も久々に行われました。教会刺繍の会から献品された手作りリネン、各教会のオリジナルグッズや、京都教区に帰ってきたコア・感謝箱献金事務局がお献げ先のグッズ販売をされて、どのブースも盛況でした。

午後に行われた分かち合いでは、代表者会で設置が決議された「今後の婦人会-京都教区婦人会の運営方法を考える委員会など」がテーマでした。2年間の限られた任期の中で、今後のことまで考える余裕がない事務局とは別に、そのことだけに焦点を絞って協議し提案をまとめる委員会です。困難



な状況を共有しつつ、委員会を設置することは懸案課題に向き合うための貴重な一歩だと思います。分かち合いでの皆さんの率直な思いや委員会への期待は、委員への大きなエールでした。1日だけのシンプルな集いでしたが、共に祈り、分かち合えた時を与えられ、常に共にいてくださった神さまに感謝しております。京都教区婦人会の大会への大きなお力添えをありがとうございました。

大阪教区婦人会**大阪教区婦人会 会長 鈴木 久美子**

2022 年大阪教区婦人会秋の修養会は、2005 年に守口聖オーガスティン教会に併設された「守口ぶどうのいえ」について、当教会の牧師であり、施設長であるヤコブ松平功司祭のお話をお聞きました。

「守口ぶどうのいえ」とは、老朽化した牧師館を建て替える際に、地域に貢献できることはないかと考え、東京聖テモテ教会の働きに倣って、「病院の近くの我が家」を目指して、大阪の病院で治療を必要とする患者さんとそのご家族が安価で安心して過ごせる滞在施設として、前牧師ダニエル山野上素充司祭と信徒さんとの努力で創設されました。その働きには施設長ご夫妻はじめボランティアの力がかせません。

**松平 功 司祭**

松平司祭はプロジェクターを用いて、「ぶどうのいえ」の外観や、施設内の様子、利用者さんのことを話されました。いろんな事情をお持ちの方、病状の悪化された方と関わる時、かける言葉さえなく、何もしてあげられないことで悲しくなり、自分は何のために「ぶどうのいえ」にいるのだろうかと思ひ苦しみました。

**於：尼崎聖ステパノ教会**

そんな時に、手塚治虫原案の「トイレのピエタ」という映画をみて、何かをどのようにしてやれるとか、必死にがむしゃらに頑張るのではなく、存在しているそのことが寄り添っている意味なのだと教えられ、だれにでもできることなのだと話されました。「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイ：22:39)の箇所をから「愛することとは、他者に寄り添うこと」と話されました。

ぶどうのいえのボランティアは有償ボランティアで交通費も1回千円までです。ボランティアの世代交代も考えて「ぶどうのいえ」を知ってもらいたいと考えておられた、施設長ご夫妻の希望にそえた修養会を開催することができ、皆さんが活動支援への参加に関心をもっていただけたことは、大変うれしいことでした。

大阪教区婦人会は1923年11月1日に「大阪教区婦人補助会結成大会」が開催された記録をもとに、2023年11月3日(金・休)午後1時より大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)で100周年記念聖餐式を行う予定で、記念誌の発行もすすめています。

この二つの働きのために、被献日献金を使わせていただきました。

《 感謝箱献金事務局（コア） 梓 》



被献日献金と感謝箱献金
～神の宣教に参加するために～

感謝箱献金事務局
運営委員長 井田 涼子

日本聖公会婦人会会則に「被献日 2 月 2 日を創立記念日とし、教区婦人会等で礼拝を行い、神の宣教に参加するために、会員・教会に連なる人・教役者が主体性を持って学び・育つことを祈り、献金を献げる。」と書かれています。被献日献金と感謝箱献金の使途は違いますが、目的は同じ「神の宣教に参加する」ことです。

2022 年、130 年を迎えた感謝箱献金は、日本聖公会婦人会の原点となる活動であることを再確認しました。被献日献金には感謝箱献金事務局スタッフの研修費用として 20 万円の申請枠があります。コロナの感染が治まらず積極的にお献げ先を訪問ができなかったこと、学びのために人が集まることやその準備が難しかったことなどの理由で、2022 年もお献げ先の訪問や報告会、研修会などの機会を持つことができませんでした。今年こそ訪問が緩和され、皆さまと出会い、分かちあえることを願っています。

今、「社会のしくみの中で生命や存在が危うくされている国内外の人々」が激増しています。「特に女性や子どもたちの自立をめざす働き」の支援がもっと必要になるでしょう。それらの問題を私たちと関係が無いことと捉えるか、私たちにも関係（責任）があることと捉えるのかが問われています。そして「お献げ先の人たちと互いの顔が見える関係を築いていく」ことがとても大切です。支援の大小ではなく、関心を向けること、現実を知ることが必要です。多くの困難を抱えているこの世界の中で、私たちができることは小さなことです。けれども小さなことが集まると、大きな力になることを感謝箱献金の歴史を通して学んできました。

いつも悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれる主イエスさまを見つめながら、一緒に歩んでいきましょう。



婦人の祈り

神様と共に

主なる神さま。日本聖公会の婦人たちを、いつくしみのうちに歩ませてくださることを感謝いたします。

私たちが、神さまからの賜物を生かし、謙遜な心と愛をもって、すべての人々に福音を伝え、まことの平和をつくり出すために、主のみわざに与らせてください。

この世のものみな、喜びにあふれ、主を賛える日のきますように。

主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン

編集後記

それぞれの場でそれぞれに活動していた私たちが一つの働きに呼ばれ、動き出しました。一緒に働けることを嬉しく感謝していますが、不慣れなことも多いためご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。みなさまのお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。
(書記 岸野 真理子)

私は、20年近く教会を離れていた者なのですが、所属教会の婦人会の活動に誘っていただき、さらに日聖婦の役員まで仰せつかってしまいました。新しい仕事に携わっていると、知らなかった世界が広がっていくようです。これもお導きと考え、挑戦していこうと思います。よろしくお願いいたします。
(書記 大森 絵里)



日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。

『ニュースレター』『ガラヤのほとり』も掲載しています。

ぜひご覧ください！

<http://www.nskk.org/fujinkai/>



日本聖公会婦人会ホームページ